

藤田湘子の四百句選 拾遺十二句 野本京 選

令和七年一月一日（2025.01.01）

もはや掌の濕り胡桃の暗部まで 『春祭』

眼を閉ぢてわれの消えたる春の暮 『一個』

山吹やこの世にありて男の身

花鳥賊や居心地あはくふるさとに

父の強情われ經て吾子へ蓼の花

わが胸の淡きところを雁の列

なべて足り男子をのこひがなし年逝くも 『去來の花』

極寒は行きつつ人を攫ひけり 『神樂』

全身にいま癌はなし楠若葉

鶏頭が立てり記憶の行止り 『てんてん』

雪の灯を通り過ぎたるこの世かな

養生は凶に乗らぬこと春の草